

「防災マイマップ」作成

EnPal 東京で啓発行事

EnPalの提案を受けて南町田グランベリーパークで開催された「みんなが学ぼう！ まちの防災2021」



拠点機能を併せ持つ南町田グランベリーパーク（同市鶴間）。住民一体となった防災啓発行事をEnPalが提案し「みんなが学ぼう！ まちの防災2021」と題して開催された。約450人が参加し、近くを流れる境川の氾濫危険エリアと自宅、避難所などの位置情報をタブレットに入力する「防災マイマップ」作成にも親子でチャレンジした。

「被災した金藤さんならではのノウハウがあり、シンプルかつ有用なマップができた」と今年3月まで高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所の初代所長を務め、妻子とともに来場した枡谷有吾・国土交通省治水課企画専門官(41)。同デベロップメントの青木太郎執行役員(49)は「イベントを重ねることでソフト面での防災機能を高めていきたい」としている。

西日本豪雨被災をきっかけに倉敷市真備町川辺の金藤純子さん(58)が社会課題解決に取り組む企業として昨年6月に設立したEnPal（エンパル、同所）が10月31日、東京

協業で2019年にオープンさせた地域防災（太田隆之）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。